

第 28 回 日本体操競技・器械運動学会

シンポジウム I : 体操競技

テーマ：『東京オリンピック 50 周年記念』

団体金メダリストから学ぶ体操ニッポンの将来』

【趣 旨】

我が国の体操競技（男子）の歴史を振り返ると、オリンピックでは 1960 ローマで頂点に立ち、1964 東京、1968 メキシコ、1972 ミュンヘン、1976 モントリオールと団体 5 連勝を果たし、世界の体操界をリードしていた。その後、1980 モスクワ（不参加）、1996 アトランタ（10 位）、2000 シドニー（4 位）で団体のメダルを逃したが、2004 アテネで団体優勝。その後、どうしても団体のタイトルを獲得できないでいるが、2008 北京（2 位）、2012 ロンドン（2 位）と団体銀メダルの獲得は継続している。そんな中、今年 10 月に開催された世界選手権・南寧大会では、ミスがあった中国にわずか 0.1 点差で優勝を逃したことで、それに違和感を覚えたグランディ FIG 会長がルール見直しに言及。2 位ではあるが、少なくとも日本の体操が世界に影響を与えることのできる存在であることを示した。

そこで、今回のシンポジウムでは、2016 リオデジャネイロ、さらに 2020 東京と続くオリンピックの将来を見据えて、地元で迎えた東京オリンピックで団体優勝を果たした選手と、28 年ぶりにアテネオリンピックで団体優勝を果たした選手を招いて、それぞれの時代で、何を手がかりにトレーニングし、何を理想としてきたのかを振り返ることで、将来の展望を得ることを目的としたい。

【コーディネーター】

三幣晴三 氏（日本体操競技・器械運動学会副会長）

遠藤幸一 氏（日本体操競技・器械運動学会常務理事／日本大学）

【シンポジスト】

小野 喬氏（おの たかし：1964 東京オリンピック金メダリスト）

早田卓次氏（はやた たくじ：1964 東京オリンピック金メダリスト）

米田 功氏（よねだ いさお：2004 アテネオリンピック金メダリスト）

富田洋之氏（とみた ひろゆき：2004 アテネオリンピック金メダリスト）